米倉教公の週間為替市場見通し

10/3 日週号

ドル/円予想レンジ　100.00 - 102.50 円

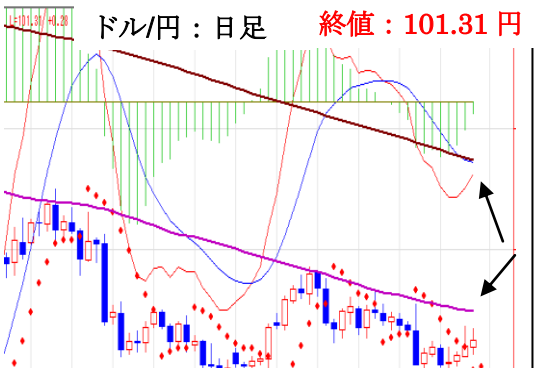
『米経済指標結果と人民元の動向に注意！』

■前週の市場動向：ドル/円は方向感のないレンジ相場

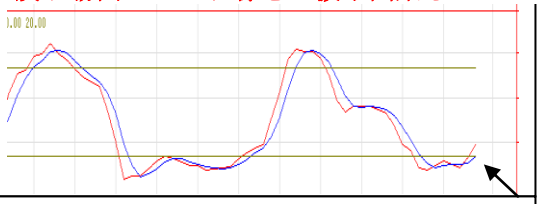
前週のドル/円の週足では、陽線引けとなった。今年に入って 2 週以上陽線となったのは 5 回ある。そのうち 2 週連続陽線は 4 回、4 週連続陽線が 1 回だけである。今週陽線引けとなったら、次週は陰線となりやすい。そのため、今週の動向が非常に重要となる。週明けは日本株の下落からリスク回避の売りが先行した。独メルケル首相がドイツ銀行への公的支援を拒否したことからリスクオフに拍車をかけた。27 日は、米大統領選候補の第 1 回 TV 討論会で、クリントン氏が優位に論戦を進めたとの見方が広がり、日本株の下落幅が縮小したことを受けてドル/円は切り返す場面があった。28 日は 100.50 円を挟んだレンジ取引となった。29 日は、OPEC 非公式会合での減産合意を受けて全般リスク選好の動きが強まる展開となった。また、強い米経済指標も買いを後押しした。しかし、ドイツ銀行の ADR が急落したことをきっかけに NY ダウや日経先物が大幅下落するとリスク買いの動きが強まった。30 日は値動の荒い展開となった。アジア時間に機関投資からまとまった買いが持ち込まれたとの指摘があり、一時 101.80 円近辺まで急伸したが、その後は軟調な日本株を嫌気した売りに押された。欧州時間帯でドイツ銀行株が急反発したことで、リスク選好のドル買いが強まった。

■今週の注目点：米経済指標結果と人民元の動向に注意！

前週はドイツ銀行の経営不安が再浮上したことで、上値の重い展開となった。週末に罰金額の減額が伝わったことで、同行の不安後退となったが、今後の同行の報道には注意が必要だ。今週は米国では重要経済指標が発表となる。9 月 ISM 製造業景況指数、9 月 ADP 雇用統計、9 月非製造業景況指数、9 月雇用統計が注目される。特に 9 月 ISM 製造業景況指数では、新規受注が伸び悩んでおり、節目の 50 に届かない可能性がある。50 を下回ると 12 月の利上げ観測も後退する可能性が出てくる。1 日から中国人民元が IMF の SDR の構成通貨に組み入れられる。人民元の需要が高まる可能性がある一方で、元に売り圧力が掛ることも予想され、動向には注意が必要だ。



戻り場面で 75 日線を上抜け出来るかカギ



★今週の気になる出来事

ヒジュラ暦では 10 月 2 日が正月となる。2009 年以降の NY 株や日本株は正月以降上昇する傾向が強い。週明け 3 日も米国株高を受けて上昇が継続すると、今年もこのアノマリーが有効であったことになる。週末に米司法省がドイツ銀行に対する和解金を 140 億ドルから 54 億ドルに減額する可能性があるとの報道でリスク選好の動きとなった。それにしても、一気に約 61%引きとは？ドイツ銀行経営不安から世界的に株式市場が不安定になったことから、大統領選対策での値引きなのか？ドイツ銀行ラッキー！

■テクニカル的な見解：75 日線の抵抗ラインに注目！

9 月 27 日付のシカゴ IMM 投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+58,686 から+68,892 へと円の買い持ち高は前週から増加となった。パラボリック（パラメータ：0.08、0.3）では、29 日に買転した。MACD（パラメータ：12、26、9）では、MACD がシグナルに向かって上昇基調。ストキャスティクス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、%K と%D は売られ過ぎ域から上昇の気配が出ている。今年に入ってから常に 75 日線が上値抵抗ラインとなっていることから、今後も 75 日線近辺での動きには注意が必要だ。75 日線は 102.50 円に位置している。75 日線が下降気味のなか、上抜け出来ずに推移していることから、円高圧力が根強く残っていることを示現している。今週は 1 ドル＝100.00－102.50 円を想定する。

本レポートについての注意事項は巻末をご覧ください。必ずご確認ください。

商号：株式会社フジトミ
金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号
商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22･12･22 商第 6 号
加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円（税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円（税込)、コンサルタント取引（対面取引）コース及びコンサルタント取引（対面取引）オンライン併用コースが片道 1,080 円（税込）です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。
【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】
金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。
計算式：為替証拠金基準額＝取引単位（元本金額）×4%×（5 取引日の為替清算価格平均値）

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。
【価格変動リスク】
くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があり、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】
くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大２５倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】
当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】
当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】
税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】
取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する２国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や受払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】
くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】
クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】
相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。
ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】
当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではございません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】
取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第３７条の６の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。